



2008 年 12 月 25 日

3,000 万人のエンタメ消費データからリアル・マーケットを読む情報サイト 『TSUTAYA エンタメ総研』 <http://soken.tol-blog.com/>

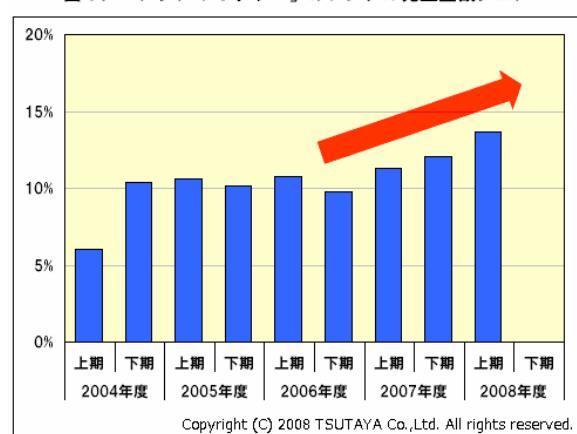
CD・DVD・本・GAME・コミックなどの様々なエンターテインメント・パッケージを取り扱う TSUTAYA は、エンタメ消費データから時代を先読みできる情報サイト『TSUTAYA エンタメ総研』を、11 月に総合エンターテインメント情報サイト「TSUTAYA online」上にオープンいたしました。

その『TSUTAYA エンタメ総研』からの第 2 回レポートは、2004 年に日本中にブームを巻き起こした“韓流”。4 年を経過した今でも熱が冷めやらない現状をお伝えいたします。

男の韓流ブーム到来！

韓流といえば、世の中のイメージはこうだろう。2004 年に NHK 地上波でオンエアされた TV ドラマ「冬のソナタ」に端を発する“ヨン様”が社会現象になり、韓流を世の中心に押し出した主導層といえば、中高年、それも 50 歳前後の女性たち。ゆえに韓流イコール、オバさま——そんな固定観念をお持ちの方がほとんどではないだろうか。

ブームは熱しやすく冷めやすいもの、として、一部のメディアでは「韓流ブーム衰退」といった内容がささやかれようになり、いわゆる“一発屋”的なムードが漂ったかのようにみえた。ところが、現実はこうだ。TSUTAYA におけるアジア TV ドラマのレンタル売上金額シェアの推移をみてほしい（図 1）。ブームの初期から現在までを俯瞰してみると、安定して 10% 前後のシェアを維持しながら、さらに 2007 年度以降は再び息を吹き返し、右肩あがりにシェアを拡大していることがわかる。

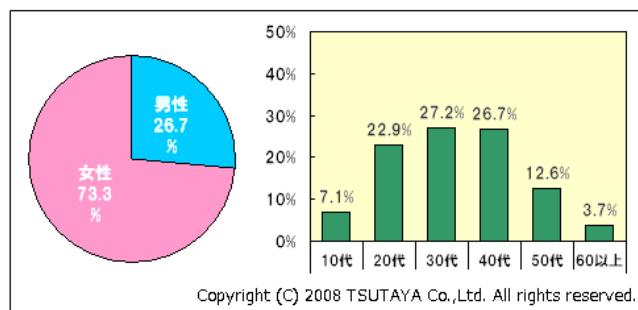


ここでブーム初期にまでさかのぼり、いくつかの主要な韓流作品をデータで検証してみよう。

まず、韓流ブームの先駆けである「冬のソナタ」のレンタル利用者の男女比率と、年代比率のグラフをみてみると、女性比率が 73.3% で約 4 分の 3 を占めている（図 2）。当時はまだレンタルするという習慣があまりなかった 50 代の女性よりも、20 代～40 代の比率が高いところが、いま振り返ると意外性があって面白い。

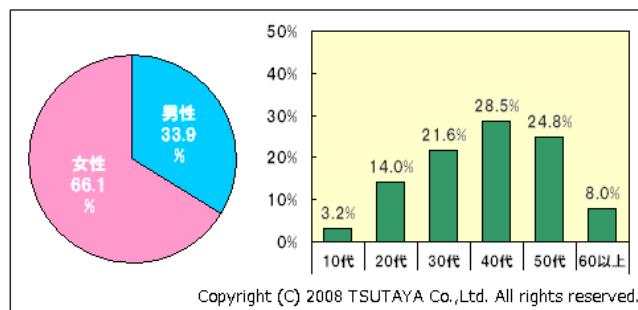


図2. 「冬のソナタ」のレンタル利用者



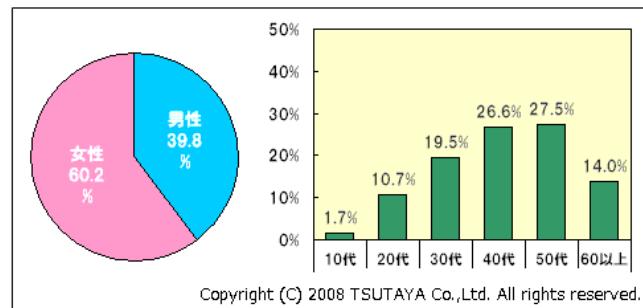
続いて、2006年にNHK地上波でオンエアされた「宮廷女官チャングムの誓い」のレンタル利用者のグラフをみると、時代モノ要素を含んだ作品という性質から、年齢層が高まりながら、主演女優イ・ヨンエの魅力もあり、男性比率が33.9%と、上昇していることがわかる（図3）。

図3. 「宮廷女官チャングムの誓い」のレンタル利用者



また、2008年にNHK地上波の同じ放送枠でオンエアされた、韓流時代劇「太王四神記」のレンタル利用者のグラフをみると、ヨン様主演ということで、女性比率が盛り返すと思いきや、そんな世間の予想に反し、男性比率が39.8%と、約4割を占めるまでになり、確実に男性、それも中高年男性にブームが波及していったのだ（図4）。

図4. 「太王四神記」のレンタル利用者



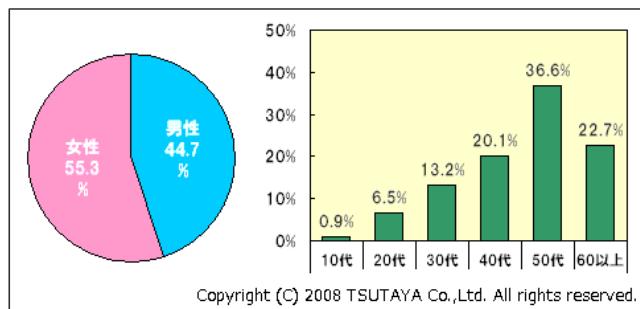
このようにNHK地上波でオンエアされた主要3作品のデータから韓流ブームの流れを読み取ると、男性比率が年々上がっていることがハッキリしたが、それだけでは、最近の韓国TVドラマの好調要因として全てが語られたことにはならない。



さて、ここであまり知られてはいないが、韓流時代劇「朱蒙」（全39巻）という作品について触れてみたい。じつはこの作品、2007年7月にリリースされた第1巻がTSUTAYAレンタル月間ランキングのアジアTVドラマ部門で首位を獲得してからというもの、続編の1~2巻が毎月リリースされるたび、入れ替わり首位を獲得しつづけ、結果、17か月連続1位という記録を更新中の、大ヒットシリーズなのだ。

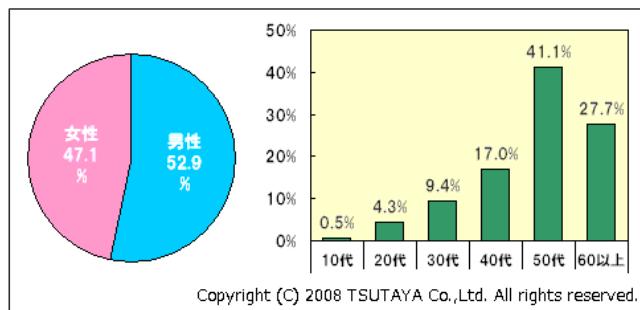
「朱蒙」のレンタル利用者のグラフをみると、作品内容が正統派の時代劇だけあって、男性比率が44.7%とさらに高まりをみせている（図5）。

図5. 「朱蒙」のレンタル利用者



しかし、この連続1位の大記録も、12月2日に最終巻（39巻）がリリースされたため、来年1月には記録が途切れてしまうことが確実だ。そんな「朱蒙」が作り上げてきた韓流時代劇の上昇気流を引き継ぐべく、次に控えている作品が「テジョヨン」という作品だ。「テジョヨン」のレンタル利用者のグラフをみると、この作品で男性比率がついに52.9%と過半数に達し、男女比率が逆転するという大きな出来事が起きたのだ（図6）。

図6. 「テジョヨン」のレンタル利用者



最近の韓国TVドラマの好調要因は、「朱蒙」や「テジョヨン」などの韓流時代劇のヒットによるものであるし、韓流のもともとの支持層である50歳前後の女性に、中高年男性がプラスされた結果だといえる。

50歳前後の女性が支えていたと思われていた韓国TVドラマのジャンルで、男性比率50%以上の男性上位作品が部門ランキングの首位を獲得するという、数年前には予想もしなかった事態が年明け早々に起こる可能性が高い。もっといえば、「テジョヨン」のような韓流時代劇が地上波でオンエアされ、いま以上にメジャーになれば、一般的に20~30代が多いとされるTVドラマユーザーが反応するだろうし、それよりも幅広い年齢層に飛び火するかもしれない。2004年から続く韓流ブームに一石を投じる、歴史的な瞬間が訪れるようとしているのだ。

2009年は、男の韓流ブームの幕開けの年になるかもしれない。



■名称:

TSUTAYA エンタメ総研

■URL:

<http://soken.tol-blog.com/> (パソコン・ケータイ共通)

TSUTAYA エンタメ総研

3,000万人のエンタメ消費データから読むリアル・マーケット TSUTAYA エンタメ総研

EXILE第2章 大ヒットの影にアラフォーあり!

2008年11月11日

1990年代バブル末期。夜の帳くとばかりが降りるとき、ミラーボールのまくらゆい光線が飛び交うなか、ジュリセイン(羽扇子)が宙を舞い、ワイン姿の女性が街のあちこちを闊歩していた時代。その頃に青春を過ごしたのは30代後半~40代前半。いわゆる「アラフォー」(アラウンド・フォーティー)と呼ばれる世代である。

21世紀になり、そんな彼女たちを再び熱狂の渦に巻き込んでいるアーティストがいる。それがEXILEだ。

EXILEといえば、2003年に発売されたカバー曲「Choo Choo TRAIN」が余りにも有名だが、この原曲が発売された1991年に、20代前半でリアルタイムでこの曲を聴いていた世代がアラフォーである。

2005年11月にベスト盤『EXILE PERFECT BEST』を発売し、ミリオンセットを記録しているが、2006年春に、ヴォーカルSHUNの脱退というグループ存亡の危機に直面する。しかし、そのピンチをチャンスに変えて、新ヴォーカルに、甘いルックスのイケメン・TAKAHIROを迎え、EXILE第2章の幕開けを宣言、素早く方向転換を図った。

今年3月に発売したベスト盤『EXILE CATCHY BEST』が再びミリオンセットを記録して、以前にも増して、躍きを放つEXILEだが、実はこのダイナミックな変革により、EXILEのCD購入者層は大きく地盤変動を起こしていたのだ。いずれもミリオンセットのベスト盤、第1章『EXILE PERFECT BEST』と、第2章『EXILE CATCHY BEST』をデータで比較してみよう。

まず、購入者の男女比率をみると、第1章では男女均等で、50%ずつだったのに対し、第2章では女性比率が約60%に増加している。(図1)

本件に関するお問い合わせ:

株式会社TSUTAYA HOLDINGS
株式会社TSUTAYA コミュニケーション推進室 広報チーム
TEL:03-5424-1937/FAX:03-5424-1986